

# れもんだいはす



発行:品川図書館  
TEL3471-4667  
FAX3740-4014

2023年7月号

夏休み到来!

まとまったお休みのこの機会に、図書館に来て本を読んでみませんか?



## 夏の本の福袋 (貸出)

令和5年7月22日(土)から配布(貸出)開始! ※なくなり次第、終了します。



## ティーンズ書評バトル POP 部門募集のお知らせ



自分のイチオシの本を、1枚の小さな紙の中で紹介するPOP(ポップ)。図書館では、皆さんが作ったPOPを大募集しています。応募された作品の中で、審査を通過し、多くの投票数を獲得したものは賞に輝くことも…! たくさんの応募をお待ちしています☆

〈各賞〉POPチャンプ賞1名・POP王賞1名・各図書館司書賞各1名

〈応募資格〉中学生～大学生世代の方

〈応募方法〉品川図書館カウンターにて受付

〈応募先〉品川区立図書館全館

〈募集期間〉令和5年8月1日(火)～令和5年9月8日(金)

〈投票期間〉令和5年10月1日(日)～令和5年10月31日(火)

〈結果発表〉令和5年11月11日(土)

〈問い合わせ〉大崎図書館分館 ティーンズ担当

品川区大崎3-12-22 電話:03-3491-3430 FAX:03-3491-3291

詳しい内容や注意事項は、図書館ホームページ、または各図書館で配布しているチラシをご覧ください。



## 開館時間

◆月曜日～土曜日

午前9時～午後8時

◆日曜日・祝日・振替休日

午前9時～午後7時



## 休館日

◆第2木曜日(品川・荏原・五反田を除く)

◆第4月曜日(品川・荏原・五反田)

◆特別整理期間、施設点検日

◆年末年始



裏面におすすめの本を載せています!



# オススメの本の紹介！

誤解や障害を乗り越えた3人の友情

『ハーベスト』 <sup>はなざと まき</sup>花里 真希／著 講談社 Y/913/ハ

中学一年生の朔弥は、内向的で周りからの視線が気になってしまう性格から、クラスの中で目立たないポジションにいた。入る部活も決められずにいたところ、担任の先生から園芸部への勧誘を受け、ゆるそうだからと入部する。しかし、そこには、同じクラスの寡黙で怖そうな男子：西森君と、言いたいことはズバズバ言っていくアメリカからの帰国子女の2年生：アズサがいた。

性格も過去もバラバラな2人と園芸活動をしていく中で、朔弥はコンプレックスである自身の性格と向き合い始めていく。

「涙の音」から始まる出会い

『涙の音、聞こえたんですが』 <sup>かなり はるか</sup>嘉成 晴香／著 ポプラ社 Y/913/カ

美音は、誰かが泣いているとき・泣きそうになっているときに出す「涙の音」を聞き取ることができる。

ある日、学校の中で美しい音色の「涙の音」を聞き、気になって見に行くと、学校中の生徒から脚光を浴びている生徒会長：高坂健がいた。健は、泣き虫な性格を誰にも悟られないように、校内の人目につかない場所でこっそり泣いていたのだった。健の素の姿を知った美音は、生徒会長の立場にある健へ、誰にもばらさない代わりに「校則を改正して、お昼の弁当を自分の教室以外でも食べられるにすること」を提案する。

ピンチな老舗靴屋の行く末は…？

『ノクツドウライオウ 靴の往来堂』 <sup>さとう</sup>佐藤 まどか／著 あすなろ書房 Y/913/サ

夏希は、4代続く老舗のオーダーメイドの靴屋、往来堂の長女。現当主（マエストロ）の祖父は、客一人一人の足に合った靴を一から手作業で生み出す一流の職人。夏希はマエストロの仕事ぶりに誇りを持ちつつも、5代目候補だった兄の家出により、後継ぎがいなくなってしまう往来堂の将来を心配に感じている。一方で、夏希自身はシューズデザイナーを夢見ており、同じ靴関係の仕事でも、靴職人の後継ぎに手を挙げる踏ん切りがつかずにいた。

土地開発会社から往来堂の建つ土地を売ることも迫られ、店の将来に心配が尽きない危機的な状況の中、夏希の前に現れたのは、同じクラスの苦手な男子：宗太だった。

3人の写真家が見たものとは？

『カメラにうつらなかった真実』 エリザベス・パートリッジ／文 ローレン・タマキ／絵

<sup>まつなみ さちこ</sup>松波 佐知子／訳 徳間書店 Y/319/ハ

第二次世界大戦下のアメリカ西海岸。12万人以上の日系人が「移送」された先は、強制収容所だった。そしてそこには、隔絶された収容所の内部の様子を記録していた3人の写真家たちがいた。

ドロシア・ラングは、人道的に振舞おうとする政府の意図に反発し、負の側面をもカメラに収めようとした。宮武東洋は、監視の目をかいくぐりながら、二度とこのような歴史が繰り返されないために収容所の中でカメラを持ち続けた。アンセル・アダムスは、収容所から解放された日系人たちが社会で認められるように、彼らの生き生きとした様子にスポットライトを当てた。

彼らが残した写真からは、それぞれが外部に伝えなかった収容所での風景や、当時の日系人たちが直面していた生活の様子を克明に映し出していたのだった。



## ティーンズ新着資料

品川図書館に新しく入った本を紹介します。

◎「鏡のうらのカガミさん」みずの まい／著 キナコ／絵 学研出版 Y/913/ミ

◎「中高生のための短歌のつくりかた」<sup>すずき ひでこ</sup>鈴木 英子／監修 メイツユニバーサルコンテンツ Y/911/チ

◎「最新ネットのキーワード図鑑」<sup>しまぶくろ</sup>島袋 コウ／著 旬報社 Y/007/サ

◎「シタマチ・レイクサイド・ロード」<sup>はまの きょうこ</sup>濱野 京子／作 ポプラ社 Y/913/ハ

◎「雨にシュクラン」こまつ あやこ／著 講談社 Y/913/コ

